

令和6年度第3回岡崎市環境審議会 会議録

1 開催日時

令和6年10月11日（金）午後2時から午後4時まで

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館2階201号室

3 内容

岡崎市災害廃棄物処理計画の改定について（審議）

4 出席委員の氏名（五十音順）

石川裕子、今村ひとみ、岩月幹雄、片山鑛一、河江喜久代、川田奈穂子、香坂玲、阪口奈央、佐谷智、鶴田和男、鳥山紀幸、橋本啓史、丸山泰男、吉永美香、渡邊幹男

5 説明のために出席した職員の職氏名

(1) 会議

環境部長 加藤元

環境部次長兼廃棄物対策課長 蜂須賀功

廃棄物対策課：副課長 高木祐司、許可監視係長 森本徳恵

ごみ対策課：課長 木村敏弘、副課長 泉弘文、副課長 三浦篤

6 出席した事務局の職氏名

環境政策課：課長 雑賀章友、副課長 手島洋二、環境活動推進係長 中村亮太、主査 小澤有司、主事 伊藤駿

7 議事要旨

岡崎市災害廃棄物処理計画の改定について（審議）

事務局から計画改定案の内容及び事前にいただいたご意見に対する回答について説明した後、質疑応答がなされた。

（香坂委員）

2024年1月に発生した能登半島地震では、家屋の公費解体において、所有者が誰になっているかが分からない等の所有権の問題で公費解体が進まない例が多発しているということを現地で実感した。

（片山委員）

「発災時」という言葉が使われているがあまり聞かない言葉だと感じた。「災害

時」という言葉の方が良いのでは。(資料 2・17 ページ)

(廃棄物対策課)

災害が発生した時という意味で「災害時」という言葉とは全くの同義ではない。「発災時」と「災害時」の言葉の使い分けを文章を見直して改めて整理する。

(片山委員)

地域集積所の選定状況について、100 件 85 町から候補地の回答があったということだが、他の町は回答がないのか「場所がない」という回答なのか。(資料 2・29 ページ)

(廃棄物対策課)

地域集積所の候補になりうる場所があれば回答を提出してほしいという形で依頼している。

(渡邊委員)

近い場所にゴミの仮置き場があればそこに出すと思うが、ボランティアで災害復旧に来ている人達はどこにゴミを置いたらいいか分からないということが実際にはある。市内にゴミの排出場所を徹底することが大事。

(環境部長)

地域の総代と連携しながら対応していく。

(今村委員)

資料 2 の 1-3 にて、本市の地域特性についての記載があり、矢作川流域では液状化問題が懸念されるなど地域ごとに様々な課題がある。地域ごとの特性をしっかりと検討してほしい。

(鳥山委員)

災害廃棄物の排出について、住人不在の家屋についてはこういった対応になるのか。

(ごみ対策課)

空家の倒壊について、道路の確保等は土木部局の管轄となる。廃棄物の搬出に関しては告示や行政が処理する手続きを踏まえた上で行政が実施する。

(吉永委員)

資料 2 の 24 ページ、「イ 排出方法」の項目の部分に、収集についての記載もあるが、同ページに「エ 収集方法」の項目もあるため、収集の内容については記載場所

を変えたほうが良いのでは。また、「ウ 排出場所」の項目に地域集積所の記載がないが入れなくていいのか。

(廃棄物対策課)

確認、検討します。

(川田委員)

町内で地域集積所を設けることができない町へのフォローなどはあるのか。

(ごみ対策課)

地域ごとの問題となってくるので、個別に対応していきたい。

(佐谷委員)

矢作川が氾濫した場合、八帖クリーンセンターのあたりも浸水することが予想されると思うが、八帖クリーンセンターは機能するのか。

(ごみ対策課)

御指摘のとおり、八帖クリーンセンターは水害時に機能しなくなる恐れはある。被災し、八帖クリーンセンターが機能しなくなった場合は中央クリーンセンターや周辺自治体に協力してもらうなどして対応する。

(丸山会長)

災害ごみは一般廃棄物と定義されるが、一般廃棄物である災害ごみを産業廃棄物の処理業者に運ばせるというのはどうなのか。

(ごみ対策課)

市からの委託という形で一般廃棄物を運搬してもらう。処理については課題はある。

会議資料

令和6年度第2回岡崎市環境審議会次第

岡崎市環境審議会委員名簿

資料1：災害廃棄物処理計画に対する意見と市の考え方

資料2：岡崎市災害廃棄物処理計画（改定案）_コメント付き

資料3：パブリックコメント実施方法